

令和8年1月30日(金) 令和7年度 第10号



さいたま市立泰平中学校

学校だより

さいたま市北区本郷1991 電話：048(651)4134

【教育目標】

豊かな心を持ち実践力のある生徒の育成

【目指す学校像】

季節の花と明るい挨拶にあふれ、
生徒一人一人に夢と生きる力を培う学校
— 大好きTAIPEI —

「啓 発 録」

校 長 宮 内 和 典

寒さの厳しい日々が続いていますが、2月4日には立春を迎えます。2月の時候の挨拶を調べると、「立春」「向春」「梅花」などで始まる、春の到来を期待させる言葉が多く見られます。

さて、立春は春の始まりを告げる日であり、昔の人々にとっては1年の始まりの日であったともいわれています。それ以外にも、人生の通過儀礼として武士社会において行われていた「元服」にあたる儀式が、旧暦時代は、現在の2月中旬。立春あたりで行われ、数え年の14歳の立春の日を境に髪型や衣服もふさわしいものに替えて、社会から大人として認められる、人生の大きな節目としていたと言われています。

この「元服」を機会に、幕末の福井藩士であり医師の橋本左内は15歳（昔は数え年だったので、実際には14歳）の時、5つの決意を記した『啓発録』というものを残しているので紹介します。

1 「去稚心」

目先の遊びなどの楽しいことや怠惰な心や親への甘えは、学問の上達を妨げ、武士としての気概をもてないので捨て去る。

2 「振 気」

人に負けまいと思う心、恥を知り悔しいと思う心を持ち、心を奮い立て、怠けたり油断したりしないよう努力する。

3 「立 志」

志とは心が向かう場所のことであり、自分の心が向かっていく場所のことをいう。そのため、目標をしっかりと定め、一旦そのように思い立ったならば、決心を失わないように努力する。

4 「勉 学」

すぐれた人物の素行を見倣い、自らも実行する。勉強とはただ本を読む、字を書くということではない。それらは学問の手段であり、これらを通じて自分の知恵や知識を豊かにし、心を練り鍛え、物事の道理や筋道を明らかにすることが真の意味での学問である。

5 「扱交友」

友人には「損友」と「益友」がある。その見極めが大切で、損友はただの仲良しというだけで、自分のためにはならない。益友はとかく気を遣い、時には面白くないこともあるが相手のよい所を見習い、自分の欠点を直すこともできるので、友人を選ぶことは大切なことである。

現在の中学生の年頃で5つの決意を固めた橋本左内。時代は異なっている、大人への第一歩は「志」を立てるところから始まるのではないかと思います。3学期は今年度の総まとめの学期でもあり、同時に4月からの新年度へ繋がる重要な学期です。生徒一人ひとりが、次に向けての自分なりの「志」をもち、充実した学年の締めくくりにして欲しいと願っています。